

恐竜の玉手箱

企画展

2014.

12.13[土]

2015.

3.1[日]

「恐竜の玉手箱が届きました！」

その中には、恐竜のレプリカなど林原自然科学博物館から寄贈された教育用標本がたくさん入っていました。

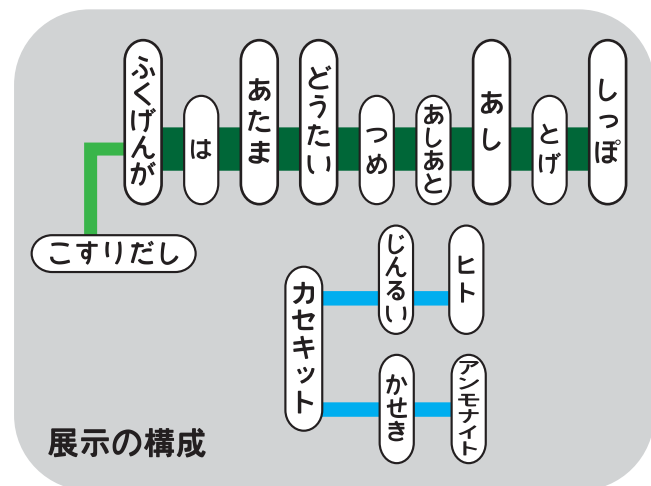
恐竜の「あたま」、「どうたい」、「しっぽ」、「あし」、「歯」など体をつくる“部分”には、それぞれの役割があります。また、骨はそれぞれ機能的な形をしています。

展示会場では、しっぽの役割を体験したり、目の位置や向きを考えたりして、“部分”が持つ機能を感じていただきます。

一方で、私たちが普段目にする恐竜は、復元された“全身”の姿でしょう。

ここに2つの出発点からなる楽しみ方が見つかります。すなわち、部分的な化石から全身骨格を復元していく古生物学的なプロセスの楽しみ方と、復元された全身の姿から体の各部分の化石を見ていくという楽しみ方です。

本企画展では、この“部分”と“全体”を行き来して、一度に両方を楽しむ展示になっています。



展示の構成

■ あたまゾーン

ヒトの頭と比べると恐竜の頭は穴だらけ。あたまの形には、恐竜の特徴がよく現れます。食べ物によりあごや歯が違ってきます。脳はどこにあるのでしょうか？ 目の入る穴はどこでしょう？ 鼻の穴はいくつあるでしょう？ 大きいあたまに小さいあたま、いろいろなあたまをくらべてみましょう！

展示品：ティラノサウルス、ゴルゴサウルス、アロサウルス、ヴェロキラプトル、ガリミムス、オヴィラプトル、カンプトサウルス、トリケラトプス、サイカニア、パキケファロサウルス、カマラサウルスほか。恐竜の歯（多数）

■ ふくげんがゾーン

- ①カマラサウルス、テリジノサウルス、スピノサウルス、ガリミムスほか
- ②エドモントサウルス、アロサウルス、デイノニクス、ヴェロキラプトルほか
- ③トリケラトプス、パキケファロサウルス、ヘスペロサウルス、サイカニアほか
- ④サウロロフス（彩色プロジェクションの予定）

■ しっぽゾーン

恐竜のしっぽ、どのように役に立っているのでしょうか？

ステゴサウルスのしっぽにある大きなとげは、きっと敵から身を守るために使っていたのでしょうか。では、ティラノサウルスの長く大きなしっぽは、どのような機能があつたかな？

展示品：ステゴサウルスのスパイク、ヘスペロサウルスのスパイク、サイカニアのクラブ、尻尾バルーン（ティラノサウルスとステゴサウルス）

■ あしゾーン

恐竜は2足歩行が基本。ですから、トリケラトプスのような4足歩行の恐竜でも後足の方が長く大きいのです。鋭いかぎ爪と平たい爪、大きい爪や小さい爪は、どのような恐竜についていたのでしょうか？

展示品：ヴェロキラプトルの後肢、アロサウルスの足跡、ジュラ紀の足跡、ハドロサウルス類の足跡（タルボサウルス、アロサウルス）、爪（セグノサウルス、オルニトミムス、テリジノサウルス、アクロカントサウルス）

■ どうたいゾーン

恐竜のどうたいは肋骨におおわれています。内臓を守るためです。縦に長いどうたいと横に広がったどうたいの違いはなぜなのでしょう。ステゴサウルスの背中についている板や、アンキロサウルスの背中をおおうタイルのような骨、そしてスピノサウルスの背骨の突起にも機能がありそうです。

展示品：ヘスペロサウルスの背板、スピノサウルスの椎骨、エドモントニアのスキュート、ワニのスキュート、エドモントニアの肋骨、つり下げ肋骨

◎ 関連行事

2015年2月7日(土)第115回サロン・ド・小田原 「“恐竜の玉手箱”を楽しむ」
話題提供：大島光春・田口公則



神奈川県立 生命の星・地球博物館

Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

■ 開館時間

9:00～16:30 (入館は16:00まで)

■ 休館日

12月15・22・24・29・30・31日
1月1・2・3・5・6・13・14・19・20・26・27日
2月2・3・9・10・12・16・17・23・24日

■ 観覧料

観覧料	企画展	常設展
20歳～64歳(学生を除く)	無料	個人 520円 団体(20人以上) 410円
20歳未満・学生		300円 200円
高校生・65歳以上		100円
中学生以下		無料



■ 交通案内

電車…箱根登山鉄道(小田急線乗り入れ)
入生田駅下車徒歩3分
車…国道1号線「地球博物館前」
交差点(歩道橋に表示あり)入る

■ 問合せ先

生命の星・地球博物館 企画普及課
〒250-0031 小田原市入生田499
電話 0465-21-1515 FAX 0465-23-8846
http://nh.kanagawa-museum.jp/

